

会 議 録				
平成 21 年度第 9 回 社会教育委員の会議	日 時	平成 22 年 2 月 17 日 (水) 午前 9 時 30 分～11 時 30 分	場 所	小金井市役所第二庁舎 801 会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	伊藤、浦野、倉持、小林、田尻、樹、中村、本多、本川、吉池 各委員		
	その他	渡辺生涯学習部長、尾崎生涯学習課長、林スポーツ振興担当課長、 田中図書館長、大関公民館長		
	事務局	木村生涯学習係主事、		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0 人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 協議事項				
(1) 三者懇談会について				
(2) 平成 22 年度社会教育委員の会議日程について				
(3) (仮称) 貫井北町地域センター建設市民検討委員選出について				
(4) その他				
2. 報告事項				
(1) 平成 21 年度社会教育委員研修について				
(2) 第 3 回小委員会について				
(3) 第 22 回多摩郷土誌フェアについて協議事項				
(4) その他				
1. 協議事項				
(1) 三者懇談会について				
(本川議長)				
三者懇談会は、5 月に予定されている。社会教育委員の会議が 22 年度の当番になっており、3 月 18 日に、三者がどういう形で進めていくかを話し合うため、事前の会議に集まるので、そこで来年度に向けたテーマなどを持ち寄り、協力した形で進めたい。そのため、事前に皆様方の意見を伺いたい。前期からの申し送りと、今期の「地域ネットワークづくりに向けて」というテーマを持っていきたいと考えているが、図書館協議会、公民館運営審議会それぞれが様々なことを考えていると思う。				
(伊藤副議長)				
図書館も公民館も社会教育事業の一環である。いろいろな市民活動とのつながりとか、切り口があって、今の段階では、それぞれ公民館は公民館、図書館は図書館で、活動をスムーズにやっていきたいと考えている。それを、小金井市全体の活動に持つ				

ていくためには1つの目標が要る。その目標を、まずは地域ネットワークづくりという
ことで進めてはどうか。

(倉持委員)

地域ネットワークというテーマ自体は、社会教育委員の会議でも議論され、今後、
地域で課題になっていくと思う。しかし、それぞれ拠点としての館を持っている図書
館協議会や公運審と、一方では私たちのように各領域、各専門や団体の立場から委員
が集まって議論しているという枠組みがあり、それぞれに課題があると思う。地域ネ
ットワークづくりというテーマ、課題に向けて議論していくのは重要だと思うが、一
方で、目標ありきで議論してしまうとこれまでとあまり変わらない形態になってしま
う。各協議会で課題を洗い出し、それをさらに持ち寄ってみるところから議論
を始めることも、回り道かもしれないが、大切かと思う。社会教育委員の中でも、そ
れぞれの立場、経験から課題を出し合った結果、ネットワークが大事だということ
に至った。そのプロセスを経ずにネットワークづくりと言っても、なかなか伝わらな
い。そうすると、今後の議論の進め方が難しいと思うので、最終的にはそこに落ちつ
くだろうという心づもりはあっても、図書館や公民館をめぐる現状と課題を出しても
らい、それを三者懇談会で共有し合うことから始めてはどうか。また、三者懇談会は
人数が多いので、何となく自由な意見交換がしづらい。自己紹介とちょっとした情報
交換程度で終わってしまう部分があると思うので、例えば三者の委員がまざるよう
なグループ分けをして、互いの名前と顔ぐらいは覚えて帰れるような人数でやったほう
が有益ではないか。グループで話した内容については、各委員会に持ち帰って話し合
えばよい。

(渡辺生涯学習部長)

今まではほとんど自由参加、フリートークで、概略の事業説明、自己紹介で終わっ
ていた。それが昨年3月、それではせつかくの会議がもったいないということで、
もう少し発展させようと、会議の回数を増やすこと、テーマを設けてやること、議事
録をつけること、この3点が決まった。今度は1回目なので、1回、2回とやってみ
て、倉持委員のような意見が多ければ、人数の絞り込みも検討したい。

それから、席の関係も、三者が分かれて対面でやるより、まざった席の配置のほう
がいいという意見であればそういう形で実施する。

(倉持委員)

懇談会はたしか2時間ぐらい時間がある。だから、テーマを持って議事録をとると
いう今までのような形でやって、後半に情報交換ということで試行しても良い。今年、
変わり目だということであれば、いろいろ試してみることを代表者会議に提案してい
ただきたい。

(本川議長)

今までのやり方を踏襲しなければいけないわけではないので、代表者の集まりで、
社会教育委員の考えを申し上げ、意見をちょうだいしたい。

(樹委員)

この間、三者懇談会に出席し、社会教育委員の役割がなかなか理解されていないと感じた。自分自身も社会教育委員が公民館、図書館と手を取り合って何をしていったらいいか、よくわからないのが現実だが、その三者が交わって何かをやるとういうときに、もう少しお互いの理解度がないと、同じ方向に向かっていけない。同じように語り合える土壌、テーマがしっかりと存在していかないと難しい。私たちはネットワークづくりを進めていきたいが、公民館の方や図書館の方たちは、ネットワークをつくることに対してどういう考えを持っているのかということがわからない。議論のテーマ設定の仕方がポイントかと思う。

(浦野委員)

図書館も公民館も、市民の方の生涯学習を通して地域の教育力、地域の社会教育の向上を目指していることは同じだと思う。地域の教育力を上げ、活性化するために、図書館のやっていること、公民館のやっていること、それらを引っ張っていく立場として何ができるか、ということを中心としていくと、それぞれ課題が出しやすいのではないか。その延長線上に地域の教育ネットワーク、地域教育会議とつながっていくと思うので、倉持委員がおっしゃったように、目標ありきでなく、まず課題を出しやすい設定をして、各委員会から課題を出し合った上で話し合うのがよい。

(田尻委員)

温度差と距離感という話があったが、社会教育委員も含めて三者でどういう話を深めていくかとなった場合に、なかなかすぐに話をするのは難しいだろう。一度、それぞれの委員会等の見学をし、様子を見て、公民館は今こういう状況でこういう課題を抱えている。図書館もこういった形で課題を抱えているということ踏まえ、3回目ぐらいに、一緒に話をする。そういったところから始めていく流れがつけるとよい。

(渡辺生涯学習部長)

全員の方が一斉に行くと会場の規模的に入れない可能性はあるが、基本的には会議の傍聴は自由。ただ、一定の時間、一定の日にちに行かなきゃいけないという制約が出るので、つらいかと思う。簡便なやり方としては、今、議事録を公開しているので、それを読むという手も1つ。そうすると、1つの会議だけじゃなくて、短時間である程度の流れは見える。

(小林委員)

私たちは地域ネットワークの必要性を感じてここまでやってきた。図書館や公民館という器がある場におけるネットワークづくりの考え方とは、「ネットワークづくり」という表題は共通でも、考える視点、思っていることはもしかしたら違いがあるかもしれない。そのあたりの洗い出しから出発をしてみたらいかかがか。公民館、図書館のことも、現場の雰囲気はわからないので、傍聴すれば、もう少し様子を知り得た上で、ネットワークづくりを深く考えることができるのではないか。

(本川委員)

今出たご意見を、三者懇に向けた代表者会議のときに、話させていただき、今後に向けてどうするかを持ち帰って相談したい。

(2) 平成22年度社会教育委員の会議日程について

(渡辺生涯学習部長)

会議室は事前に借りておくが、今までと同様、第3水曜日の午前中で押さえている。また、会議の開催回数が増えるため、開催月も検討してほしい。事務局としては、6月、9月、12月、3月の議会月を外していただけるとありがたい。なお、年8回の会議のうち1回は三者合同会議となる。それ以外に無償の三者懇談会が1回入る。三者懇談会については、5月は、まだ1回目なので、これは無償としていただき、秋にやるものを有償にできればと思っている。5月は無償なので、基本的には参加は自由になる。

(本川議長)

基本的には、6、9、12、3月を抜かした8か月で実施。8月の会議については事務局で案を出してもらおう。5月の三者懇談会の日程については、三者懇の代表者会議で相談してみる。

3. 貫井北町地域センター建設市民検討委員会の委員選出について

(渡辺生涯学習部長)

(仮称)貫井北町地域センターについては、22年度から基本設計に入る。実施設計を経て建築着工し、26年4月に開館というスケジュールで進む。施設は、建物自体は2,000平米程度。内訳は図書館が600平米、公民館が500平米、青少年の居場所ということで50平米程度、残りについては共用部分。基本設計の期間だが、この基本設計を行うために、(仮称)貫井北町地域センター建設市民検討委員会を立ち上げる。この中に社会教育委員の会議から1名の推薦をお願いしたい。委員は、全部で10名を予定。まだ要綱の決裁が済んでいないので案の段階だが、社会教育委員の会議、それから、公運審、図書館協議会から各1人、委員を選出していただく。それから、学識経験者2名、地元住民代表2名、公募市民3名の計10名で委員会を構成する。基本設計期間だが、22年の7月から23年3月までで9回の会議を予定している。その次の実施設計については、24年の6月から25年の3月まで、回数は6回。この基本設計と実施設計も貫井北町地域センター建設市民検討委員会の中で継続して行うので、選出された委員は基本設計、実施設計両方にかかわっていく予定。
[検討委員会に選出する委員として中村委員が推薦され、全会一致で承認された。]

(委員)

本計画の工事期間はどのくらいか。

(渡辺生涯学習部長)

委員会自体は24年の3月で終了、その後、実施設計の本設計を並行してやっ

くので、予定としては、終わるのが24年5月ぐらい。その後、確認申請、業者の指名選定の後、議会に送付して議会承認の手続を踏み、着工については25年の1月を予定している。竣工については26年の1月ぐらいで、準備期間を経て26年4月に開館を目指している。

4. その他 特になし

2. 報告事項

(1) 平成21年度社会教育委員研修について

(小林委員)

1月30日土曜日、1時15分から5時まで、水道橋の東京都教職員研修センターの視聴覚ホールで「地域教育フォーラム2010～地域・企業と学校が連携し、子供たちの『実社会・実生活に生きる力』を育もう～」というテーマで社会教育委員研修が実施された。地域教育推進ネットワーク東京都議会会長による開会の挨拶、東京都の教育長次長松田芳和氏の挨拶があり、1部、2部構成のプログラムであった。第1部では、教育支援プログラムの事例紹介が3つあり、殊にこの中で企業の方、株式会社リバネスの教育開発事業部長の藤田さんの報告、ユニクロのCSRチームの小柴さんの報告と一緒に、高校生と企業CSRチームが連携したということで、都立美原高等学校の金子先生と生徒さんも登場された。第2部は、「地域教育が切り拓く子供たちの未来」というテーマのパネルディスカッションで、ここでのパネラーも、株式会社Panasonicコーポレートコミュニケーション本部から山口さんが出ていた。ほかにも、NPOのスクールアドバイザーネットワークの方、東京都の教育庁地域教育支援次長の3人がパネラーで、コーディネーターがフリーアナウンサーで、きてきて先生プロジェクト代表の香月よう子さん。これまで何度か研修に行ったが、企業が登場してくることは初めてだったので大変興味深かった。地域教育にどのように協力できるかということを探られている点、高校生が登場した点もこれまではなかった。閉会のあいさつとして、地域教育推進ネットワーク東京都議会副会長で、経済同友会の学校と企業、経営者の交流活動推進委員会委員長の山中さんから話があった。短い時間で大変充実したプログラムだった。どのように地域力を上げていくかという点で、これから企業の支援とどのように手を組み、手づくりで進めていくことができるかを考えるきっかけになった。これまでは学校を取り巻く環境という点では、企業は私の中に発想がなかったので、これから考えていく中で充実した研修だった。

(浦野委員)

今までの研修の中では企業が出てきたことがなくて、今回、初めて企業もいらして、企業の地域参加貢献についてすごく熱心に語られていたので、これからの活動が社会全体としてつながっていくのではないかと大いに期待できるような研修で、実り多か

った。

(樹委員)

前半の一部しか参加できなかったが、企業が地域教育、学校教育にどう力添えができるかということは今、真剣に考えているのだということが伝わってきた。家に帰ってインターネットで検索してみると、多くの企業がCSRということで動いている。また、その企業が持つノウハウだけではなく、経済力も地域や学校教育に還元できるようになってくると、新しい発見ができるのではないかという大変夢のある、新しい展開を予感できる研修になった。

(本多委員)

ユニクロの企画で、子どもたちが不要となった衣料品を集め、段ボール箱を難民に届けるときに、初めて国連の事務局に行き、難民の人たちのスライドなどを見て涙ぐんだという先生のお話を伺った。活字の上では知っていたとしても、実際に自分が携わって集めたものが難民の人たちに着ていただけるという感動で、ということだと思う。そのところがすごく胸に迫った。

(中村委員)

社会教育を学生時代に勉強したときに、社会教育の概念の中に企業が入ってくるということは予想だにしていなかったもので、社会教育の最近の流れとして、企業のそういう役割は今後ますます大きくなっていくと感じた。企業も、利益を即追求するというスタンスかと思ったが、結果としてブランドイメージが高くなればというスタンスで臨んでいる。長期の視点で企業も社会教育に携わっていこうという考え方はよい。

(2) 第3回小委員会について

(伊藤副議長)

2月10日に第3回の小委員会が開催された。地域教育会議に関する提言に、作業スケジュールがあり、22年度から作業部会の発足、学校ニーズの把握、地域の人材、協力企業の発掘、学校支援ボランティアを人材バンクに登録、その活用ということが書かれている。行政としては、地域教育推進検討委員会を設置し、市長部局も加わる形として生涯学習部事務連絡会を活用するとある。学校支援に関しては、まず、学校でどういうニーズがあるのかを委員会として把握しておくのが先ではないのかとの話があり、学校として希望があるのかを伺った上で、学校支援のためにどう動いていったらいいのかを考えないといけない。

(田尻委員)

学校と家庭と地域の連携がますます必要になってくるが、現状は各学校任せ。それぞれの学校でゲストティーチャーというボランティアに入ってもらっている。例えば学生ボランティアにしても、副校長がいろいろ電話して探し出し、さらにその友達にお願いする等して、1日に20名来てもらっているが、どこの学校もボランティアの確保は容易ではない。何かを介して学校に紹介してもらえるシステムづくりが必要に

なってくるかとは思ふ。今、学校だけでは、子どもは育たない。学力と心の教育、安全ということから考えると、地域を含めた外部人材やさまざまな人の力を学校に取り入れていく必要がある。

(本川議長)

学校、社会教育を考えていく上で、学校教育のことを知らないでいろいろなことをやっていくのはまずいという話が小委員会でも出た。今、各学校に、学校連絡会というものがあり、学期ごとに1回実施しているかと思うが、ここでは、かなりいろいろなことを話していただける。学校の現状や、地域で協力してもらいたいこと、学校はこういうことを目指しているというようなことを詳しく話していただいているので、もし可能であればそういうところに意見を出せていただくのはどうかという話も出た。

(田尻委員)

平成13年頃、学校連絡会が小金井市に設置された。ねらいは開かれた学校づくりの一環で、保護者、地域住民の意向を把握して連携すること。そのために、校長の求めに応じ、委員が一堂に会して意見を述べる。年3回が原則だが、それ以外に校長が必要に応じて召集できるという形で実施をしている。委員は10名。2名は校長と副校長、残りの8名は、通学区域内に住んでいる方から公募と推薦。8名の中から2名以内公募とする規定がある。今年度は、学校評価において、学校関係者評価を取り入れなければいけないというシステムになり、小金井市ではその評価委員を学校連絡委員が兼ねることになっている。

(本川議長)

学校連絡員の中に社会教育委員が入ることは可能か。また、それにはどういった手順をとればいいのか。

(田尻委員)

公募が2名以内で、それ以外の委員については、各学校長で決めている。

(伊藤副議長)

公募の枠で申し込むのが一番よいか。

(田尻委員)

その形が一番いいと思う。校長会の中でも、私から「社会教育委員の会議からこういった意見がある」ということは報告できる。

(本川議長)

ぜひお願いしたい。いろいろな話を小委員会、本会議を含めて一つ一つ検討し、実践できることはしていくという形で進めていきたい。

(田尻委員)

学校としての推薦例は幾つかあるが、幅広い方々に連絡委員になっていただいて、いろいろな視点から情報を交換できればいいと思う。縛られてしまうと、前年踏襲になりがちになったりするので、学校としても幅広い方々に連絡委員になってもらうことが必要かと思っている。

(3) 第22回多摩市郷土誌フェアについて

(尾崎生涯学習課長)

平成22年1月22日、金曜日から24日、日曜日の3日間で第22回多摩郷土誌フェアが開催された。時間は、午前10時から午後7時まで、最終日の24日は午後5時まで。会場は、立川にあるパークアベニュー3階、オリオン書房ノルテ店。参加自治体は27自治体、23市3町1村。販売数は合計で86冊、合計金額で2万5,600円の売り上げ。

(4) その他

・第15回東京国際スリーデーマーチについて

(林スポーツ振興担当課長)

小金井公園いこいの広場をスタート、ゴールとするウォーキング大会である東京国際スリーデーマーチだが、平成22年度は日本ウォーキング協会、朝日新聞、小金井市、小金井市教育委員会、それから、会場の小金井公園を所管する東京都西部公園緑地事務所、東京都公園協会が主催者となり、5月1日、2日、3日の日程で開催が決定。ホームページでは既に2月3日から募集を開始している。近日中に募集チラシもでき上がるので、市内各施設に配布し、募集をしていきたい。市報での申し込みについて、3月15日号と4月15日号の市報に掲載を予定。小金井市の協力団体による協力内容は、1月22日に主催者実行委員会を開催し、昨年同様、駅での案内、会場での出店を行う。

(吉池委員)

スリーデーマーチで3日間参加の参加費用があるが、1回だけ参加の場合は3分の1の費用で参加できるというのを検討する予定はあるか。

(林スポーツ振興担当課長)

参加費については、1日だけ参加の方は1,000円。3日間参加の申し込みは、事前申込2,000円、当日申込2,500円。高校生はどちらも1,000円。80歳以上と中学生以下の方は無料。

・放課後子どもプラン運営委員会について

(小林委員)

1月21日、木曜日、午前10時から放課後子どもプラン運営委員会があった。3名のコーディネーターから、定例の報告があった。次年度以降どうなるのかという質問が出た。皆さんから、前もって運営委員会で何か聞いてほしいというようなことがあれば、言っていただきたい。

以上